令和３年度　第２回　多治見市学校給食運営委員会議録

○日時　　令和３年１２月２２日（水）１４：００～１５：００
○場所　　多治見市食育センター　２階研修室
○委員出欠席　　出席委員　　１０名　石田委員、柴田委員、片山委員、林委員、後藤委員
國府田委員、奥村委員、山本委員、揖斐委員、
桜井委員
事務局出席者　　６名（教育長、副教育長、食育推進課長兼食育センター場長
食育推進課職員５名）
欠席委員　　３名　前川委員、山中委員、三宅委員

○会議次第
１．開会のことば
２．教育長あいさつ
３．議事
議第１号　令和４年度多治見市学校給食費の改定について
その他
・多治見市食育センターの紹介・施設案内

○会議内容（要点）　　以下のとおり
（食育推進課長）
ただいまから令和３年度第２回多治見市学校給食運営委員会を開会する。
（教育長）
本日は、ご多忙の中お集まりいただき、厚く御礼申し上げる。今年度、学校はコロナに始まり、コロナに終わったという感じであるが、その中でも学校現場では通常登校ができ、修学旅行にも行くことができた。これも現場の皆さんの努力のおかげであると思っている。教育委員会としては、今年度、小泉小学校、食育センターが竣工し、笠原義務教育学校の整備構想もできてきた。
本日の議題は１つであるが、大事な話題であるので、是非しっかり議論をいただき、多治見市の給食がより一層発展するようにと願っている。
（食育推進課長）
これより、議事に入る。片山会長に、議事進行をお願いする。
（会長）
これより令和３年度第２回多治見市学校給食運営委員会の議事に入る。今回の会議録署名委員として、國府田珠実委員及び揖斐弘美委員を指名させていただく。後日、会議録への署名をお願いする。
また、多治見市情報公開条例第 23 条の規定により、本運営委員会の会議は一部公開とさせていただく。それでは、この委員会の成立について、事務局から報告願う。

（事務局）

本日の会議は、全委員数１３名、出席委員１０名で過半数に達している。よって、多治見市学校給食運営委員会条例第６条第２項の規定により、委員会が成立したことを報告する。

（会長）

議第１号、令和４年度多治見市学校給食費の改定について、事務局から説明願う。

（食育推進課長）

P.3 令和４年度多治見市学校給食費の改定について、説明

（会長）

ただいまの令和４年度学校給食費の改定に関して、質問はないか。

（委員）

なし

（会長）

質問がないようなので、議第１号、令和４年度多治見市学校給食費の改定について、原案のとおり可決してよろしいか。

（委員）

異議なし。

（会長）

異議なしと認める。よって、議第１号は原案のとおり可決された。

（会長）

以上で本日の議題はすべて終了した。この後、事務局から多治見市食育センターについて説明があるが、その前に、せっかくの機会なのでご質問等ある方はご発言願う。

（委員）

色々なところで給食費の無償化について聞く機会があるが、多治見市はどう考えているか。

（食育推進課長）

今のところは考えていない。学校給食法で定められているとおり、食材費については徴収をする考え。

（委員）

給食費は現在私会計であるが、公会計化については検討しているか。

（食育推進課長）

今年度、是非について検討を進めているところ。近隣他市との勉強会を行い、研究を進めており、間もなくご報告ができるかと思う。

（委員）

私会計の場合、学校現場の負担等もあるのではないかと思う。逆に、保護者とのコミュニケーションという点ではメリットもある。メリット・デメリットがあると思うが、それに加えて給食費の徴収率の問題等課題をもあるので、より良い方向になるよう検討いただければと思う。

（教育長）

文科省からも公会計化を進めるようにという通知が来ている。多治見市も平成 25 年に検討したが、教員の働き方改革の事もあるが、徴収率の低下については心配がある。多治見市は、なるべく現場への負担をかけないようにと考えているが、学校現場で給食費、教材費を一括で徴収する方が良いと、当時は結論をだしている。学校現場の先生方はどうお考えか。

（委員）

多治見市の小中学校にはＰＴＡ事務を配置していただいており、本校においてもかなりの部分をお願いしている。公会計化については、校長会でも話題にあがっているが、市にお任せしてご検討、ご判断いただければと考えている。

（委員）

給食の「味」についてだが、学校と調理場がやりとりしているノートがあると思うが、そちらで批判的な書き込み等はあるのか。

（事務局）

どちらかというと、子どもの目線で書いていただきたい書類であるが、大人の感覚で、個人的な意見を書いている現場もある。子どもが食べるものとしてどうか、という意見を書いていただけるとありがたい。

（委員）

先日、学校の先生とお話しする機会があり、他市と比べてちょっと、というような事を言ってみえた。

（事務局）

減塩と野菜の摂取ということを意識した献立としていることから、今後も子どもや保護者、学校現場に周知していきたい。多治見市は、かつお、昆布、いりこだしなどで、だしをしっかりとることを意識しており、薄味でもおいしく食べてもらえるのではないかと考えている。

（委員）

残菜率については、増えているのか。減っているのか。

（事務局）

残菜については、地域、学年、クラスによって差がある。他市に比べると少ない方かとは思う。

（事務局）

コロナの関係でおかわりが禁止になったというところもあると聞いている。

（委員）

先ほどの、ノートと残菜について、今年はコロナの関係で、給食の途中で席を立たないようにという指導をしてきたので、おかわり等はできないのが現状。ノートについては、給食時間は子どもたちが一斉にマスクを外す時間であることから、現場の教師はかなり気をつかっており、その時間は子どもたちについていたいと考えているため、ノートの記入には負担を感じている。そのため、職員室にいる職員でノートを書くこともあり、子どもの目線で書こうと気にかけてはいるが、大人目線の意見

になってしまう部分があるのかもしれない。コロナが収まると、給食時間に少しゆとりが出て、状況は変わるかもしれない。量については、給食費の関係もあるのかもしれないが、職員室の汁物等が少ないときがある。多治見市は、予備分というのを入れていないので、職員室では、「少ない」と感じる場合もある。少ないときは言ってください、と調理場から言われているので、伝えるようにしている。給食費の改定でこの状況も改善できるのでは、と期待している。

（委員）

おかわりについては、雰囲気が影響している。現場で子どもたちを見ていて、今の子どもは昔に比べて食欲が落ちたとは感じないが、給食にコロナ対応が入ったことで、メリットとデメリットが出てきている。これまでは、たくさん食べたい子どもは事前に量を増やしたり、量が食べられない子どもは減らしたりという姿があったが、現在は黙食になり、最初に均等に配る為、量が増やしたい子どもは思うように食べられない状況、ただし、黙って食べることで、今まで食べるのに時間がかかっていた子どもは、最後まできちんと食べきれることができるようになっている。

塩分については、家庭で薄味に慣れている子どもは十分だと感じているし、そうでない子もいる。

（委員）

味について、子どもから文句を聞いたことはない。職員室にいると味が薄いということは聞くこともある。中学校なので、ノートの感想は給食委員の子どもたちが書いている。量については、１年生の子どもが、小学校から中学校にあがった時にご飯の量やパンの大きさがかわるため、初めは戸惑うことも多い。

（委員）

前回、第１回の会議で今のような話題がでたため、学校で給食について聞いてみたところ、他市からみえた先生から、多治見市の給食は味が薄いと聞いた。ご飯が余るという話を聞いたが、子どもたちに必要な栄養価を計算して量を決めていると伺ったので、それであれば子どもたちがたくさんご飯を食べられるよう、味付けを濃くするなどのとか、白米がよりすすむメニューにする工夫をしていただければと思う。

（委員）

うちの子どもたちは、ごはん、パンの量が多いと言っている。食べられない量でも、減らすといった対応をしてもらえていない。給食費が上がるという話を子どもにしたら、余って無理やり食べさせるほど多いのに、給食費を上げるのはおかしいのではないかと言っていた。栄養価など、取るべき量が決められていることを伝えたが、体型を気にしていることもあるのか、女子には苦痛であるということであった。

（会長）

以上をもって、第２回学校給食運営委員会を終了する。